



発行所 財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部44円
題字 井戸 知事

火は見てる
あなたが離れる
その時を

「ひょうご消防のつどい2007」

開催

平成十九年一〇月二〇日(土)午後一時三〇分より、姫路市市民会館大ホールにおいて「ひょうご消防のつどい2007」を開催しました。

このつどいは、永年にわたり消防業務に従事してきた消防職員・消防団員の功績を讃えた表彰を行うとともに、幹部の研修

を行い、士気の高揚と知識・技術の研鑽を深めることを通して消防人の強固な団結と消防機関の連携体制を確立することを目的に開催されました。



当日は、開催地の団長でもある梶原副会長のことばに始まり、国家吹奏、黙祷につづき、関山会長あいさつ、知事(代理齊藤副知事)式辞、米田姫路副市長の歓迎のことばのあと、知事表彰、消防協会会長表彰が各団体代表受領者に手渡されました。その後、来賓の方々より祝辞をいただき、受章者の代表として宍粟市千種消防団春名団長より謝辞が述べられ、第一部は終了しました。

そして第二部では、NHK解説委員(自然災害と防災担当)の山崎登氏を講師に迎え、「地域の防災力を高める」の演題で講演をいただきました。京都大学巨大災害研究センターの非常勤講師も務められている山崎氏の講演は、視覚的にも非常にわかりやすく構成されており、危機感の伝わる情報伝達の重要性や他人事ではなく地域で取り組む防災について解説委員の立場から述べられる意見は非常に興味深いものでした。

永年消防業務に携わっている方だけではなく、一般の方もわかりやすく防災の知識を学ぶ



表彰



NHK 解説委員の山崎登氏による講演

とができたのではないかと思えます。最後は次回開催地の望月副会長の閉会の言葉で幕を閉じました。

第一部で行われた表彰は次のとおりです。

- 家族の賞 消防団員 四八八名
- 親子二代の賞 消防吏員 八一名
- 消防協力者賞 六三組
- 表彰旗 神河町消防団
- 功労章 消防団員 四四名
- 永年勤続功労章 消防吏員 七四名
- 表彰状 消防団員 一七九名
- 永年勤続功労者賞 消防吏員 一一八名
- 表彰旗 二団体

兵庫県知事表彰
たつの市消防団
○竿頭綾
神戸市西消防団
三木市消防団
朝来市消防団

平成十九年一〇月二五日(木)晴天のなか、神奈川県横浜市の日本消防協会中央消防訓練場において、第十八回全国女性消防操法大会が開催され、兵庫県からは加東市女性消防隊が出場されました。

第十八回全国女性消防操法大会



加東市女性消防隊



練習に練習を重ね...

加東市女性消防隊の皆さん大変お疲れ様でした。

なお、これらの表彰は、消防業務に精励し、防火思想の普及、消防施設の整備、災害の防衛に關する対策の実施等について、その功績が特に優秀な消防団、事業所及び消防職員やそれを支えたご家族の方々、また、その勤務成績が優秀で他の模範となると認められる消防職員に對して行われるものです。

- 竿頭綾 芦屋市消防団
- 功績章 高砂市消防団
- 功績章 多可町消防団
- 功績章 一三四名
- 功績章 二二一名
- 功績章 二九六名
- 功績章 四五六名
- 功績章 二名
- 家族の賞 三〇年以上 一一七名
- 家族の賞 四〇年以上 一六名
- 家族の賞 五〇年以上 一名
- 永年勤続表彰 二名

「活力と魅力ある 消防団を」

養父市消防団長 片岡 稔

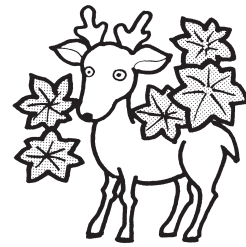


養父市は、平成十六年四月一日、兵庫県養父郡の八鹿町・養父町・大屋町及び関宮町の四町が合併して誕生しました。人口

は約二八、〇〇〇人で、兵庫県北部の但馬地域の中央に位置しています。県下最高峰の水ノ山や鉢伏山、ハチ高原、若杉高原など、雄大で美しい自然に囲まれています。消防団も市町合併に伴い、四消防団が合併して団員数一、三二〇人の養父市消防団となりました。

本市消防団の歴史は江戸時代にさかのぼり、当時は「火消組」と称されていたようですが、明治四四年に「消防組」となり、その後、昭和十四年に消防組が廃止され「警防団」に改められますが、昭和二二年には廃止と

なり、消防組織法公布により消防団への改編が行われたそうです。途中数回の機構改革と市町合併を経て現在に至っています。私が入団したのが昭和四二年、当時の消防団の制服姿に何故か憧れ、入団できたのが大変うれしく思ったものです。その後、昭和五六年に副団長任命を受け、平成三年、団長を仰せつかり、はや今年で四二年目を迎えたところ



近年は、全国的な過疎化等の諸問題が消防団にも及び、入団者の減少等が今後の大きな課題となっております。また、市町合併に伴い管轄面積等が変わらな

消防団今昔

43

「奥丹後地震」

宝塚市消防団長 古東 宏之



阪神・淡路大震災から十二年が経過し、現在では東海・東南海・南海地震等の大地震の発生が懸念されています。

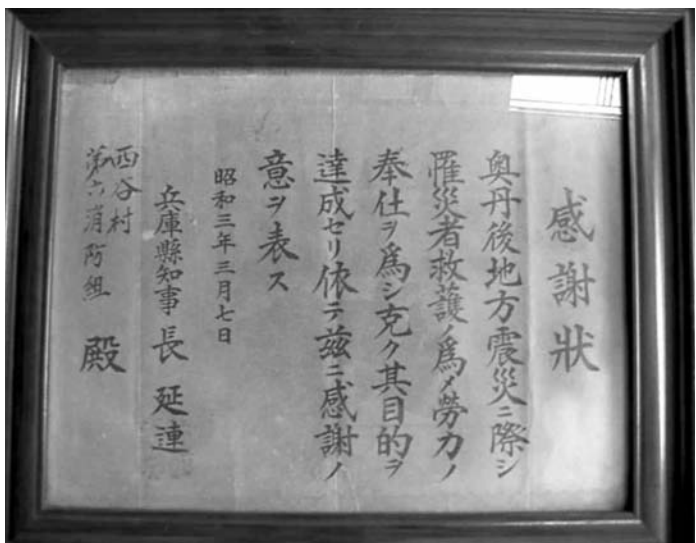
阪神・淡路大震災では、宝塚市も甚大な被害を受けましたが、同時に多くの支援も受けました。実は、約八〇年前、大地震の際、宝塚市からも救援活動に参加していることが地元の方のお話から明らかになりました。

「昭和二年三月七日夕突如として襲来せし激震は東部山陰地方に甚大なる被害を及ぼし、地域は比較的狭小なりしも、その

惨状の程度に至りては往年の関東大震災に譲らざるものあり」：兵庫県が刊行した『奥丹後震災救援誌』の序文の書き出しであります。この奥丹後震災に際し、当時の川辺郡西谷村の第六部消防組(現在の宝塚市消防団西部分団)からの場亀市氏、森脇榮次郎氏をはじめ三〇名が「努力奉仕」として三月十五日から同十七日まで救援活動を実施したそうです。

この地震は現在「北丹後地震」と呼ばれており、三月初旬という寒い時期の夕食時、風呂や台所では薪が燃え、火鉢やコタツには炭火があった状況の中で発生し、家屋は火種を抱えたまま倒壊し、倒壊家屋の中から脱出できずに生きたまま焼死するという悲惨な出来事がいたるところで発生しています。死者は二、九二五人、全壊家屋五、一四九戸、全焼が六、四五九戸という被害状況でありました。被災地は凄惨な状況であっ

たようです。この状況を救うべく、山田村方面に向かって救援隊は派遣されました。何せ八〇年前、今のように交通も装備も十分ではない時代ですから、わりじ履きで、背中には大風呂敷に入れた食料を背負い、大原野字猪ノ倉、銀山別れに集結し出発したということ。また、被災地に入ってから、三日間にわたり、不眠不休の復旧作業を行い、被災地の方々から限りない感謝を受け帰路に就いたそうです。現西部分団には、その時、県知事から送られた感謝状が残されています。これらは、宝塚市の防災の歴史



北から南から

「海の玄関口として栄えた町 飾磨」

中播磨地区

姫路市飾磨消防団は、市の南部のほぼ中央に位置する飾磨区を中心に、西は広畑区から東端は大塩町までの東西十四キロメートルの海岸線を管轄する消防団として一部、十四分団、五六〇名の団員で構成しています。

管内は、瀬戸内海気候帯に属し温暖な地域です。一方、海岸線には重化学工業を主体とした危険物施設を有する姫路臨海地区特別防災区域を抱えています。また、管内の中心部には小豆島や家島諸島への連絡口である特定重要港湾に指定されている姫路港があります。

この度は、飾磨の歴史を中心に管内を紹介したいと思えます。「飾磨(しかま)」の地名は、日本最古の歌集「万葉集」で詠まれており、日本最古の地誌と言われる「播磨国風土記」の中で、その由来は「鹿が居て鳴いたため」とされています。その歴史は太古万葉の時代から続いており、飾磨地区には歴史を感じさせるものが数多くあります。それは、姫路藩の海の玄関として栄えた湛保(たんぼ)と呼ばれる港、海岸線防備のために作られた藩御台場の飾磨砲台跡、菅原道真公ゆかりの三天神に英賀神社、三木一族が勢力を張っていた英賀城本丸跡などがあります。また、管内北側の亀山地区には、蓮如上人の意向により造られた亀山御坊本徳寺があり、建造物二三棟が市・県の重要文化財に指定されています。

管内最西端の広畑区は、夢前川下流部西岸の地域で、播磨臨海工業地帯の中心である新日鐵広畑製鐵所があり、北方にある京見山は標高二七メートルで、近年ハイカーで賑わっており、この山頂からは姫路市内と播磨灘や家島諸島が一望できます。姫路港東に流れる市川下流の東側に広がる灘地区は、兵庫県の重要無形民俗文化財に指定されている「灘のけんか祭り」として有名な松原八幡神社があり、その東方には中国の「赤壁」に似ていることから江戸時代にその名が付けられ、海岸には遊歩道が設けられている断崖絶壁の「小赤壁」があります。また東側に隣接する形的形町には、子宝に恵まれる八家地蔵、海水浴場、市立遊魚センター(海釣り公園)があり、景勝「小赤壁」をバックに魚釣りが出来、休日には多くの家族連れで賑わっています。管内最東端の高砂市と隣接する大塩町の大塩天満宮の獅子舞は、県内外にも広く知られており、兵庫県の重要無形民俗文化財に指定されており、飾磨は、明治四年に廃藩置県により「飾磨県」となりましたが、



姫路港



飾磨街道

その後同九年には大幅な府県統合により兵庫県等と合併しました。また、同九年には生野銀山と飾磨間に約四九キロの鉱山寮馬車道が完成し、後に播但鉄道現在のJR播但線となりました。昭和十五年には、人口約四万人の「飾磨市」となりましたが、昭和二十一年に姫路市と合併して「姫路市飾磨区」となり、整備された港湾を中心に播磨臨海工業地帯としての発展を遂げ、日本経済の一翼を担う街として成長し、今日に至っています。

わがまちの団長さん

148

「厳しく優しく」

頼もしい団長」

三木市消防団
中西 君一 団長



に「コタツのような団長」として紹介されています。しかし、平成十七年十月の三木市と吉川町の市町合併により、三木市消防団副団長に就任され、平成十九年五月一日、三木市消防団長に就任されましたので、今回再度紹介させていただきます。
三木市消防団長としては一年

目の中西団長ですが、人柄の良さと優れた統率力と吉川町消防団での豊富な経験を活かし、三八分団一、三六二名の組織を束ねる新しいリーダーとして団員を統率し、常に陣頭指揮に当たられています。
訓練や規律には厳しい団長ですが、日頃はとても温厚で団員

とのコミュニケーションを大切にされています。団員一人ひとりの負担の軽減を考慮し消防団活動が少しでもしやすくなるよう絶えず心配りをされています。
少子化と住民意識の変化等で新入団員の確保が難しい中、中西団長は、若い人たちが入団したいと思うような魅力ある「新しい三木市消防団づくり」に精力的に取り組んでおられる厳しく優しく頼もしい団長さんです。

地区通信

『けすゾウくん』がやって来た！

洲本市支部

三木市は、兵庫県南東部に位置し、古い歴史と自然に恵まれ、江戸時代から「金物のまち」として栄え、その豊かな土壌により日本一の酒米と称される「山田錦」の主産地であります。
また、中国及び山陽自動車道が市内を通過する交通の要衝でもあり、この優れた交通立地を生かし三木総合防災公園が建設され、広域防災の拠点としても整備が進められています。
中西団長は、平成五年から吉川町の副団長、団長を歴任され、平成十六年三月号に吉川町消防団長としてわがまちの団長さん

このほど、財団法人日本宝くじ協会から洲本市へ「けすゾウくん」という愛称がつけられた車両が寄贈されました。けすゾウくんの自己紹介をしますと、正式名称は「消火・通報訓練指導車」と言い、日本宝くじ協会が地域住民等に消火器の使用方法を一一九番通報などの習熟及び地震知識の啓発といった消火・通報などの訓練ができるよう平成七年度より市町村へ寄贈されており、県内では、これで三台

目の寄贈ということ。主な装備品をご紹介します
▽消火訓練用の装備
訓練用の消火器や、消火器の使用法を説明したパネルを使って、わかりやすく、消火器取り扱いの訓練を行なうことができます。
▽一一九番通報訓練用の装備
模擬の電話機やパネルなどを使って、火事や救急を想定し、正確に速く情報を伝える訓練を行なうことができます。

▽その他の装備
訓練の様子を録画するビデオカメラや防災ビデオを見るためのビデオデッキとテレビ、子供を対象とした防災紙芝居などを装備し、防災について学習することができます。
以上のような装備品が積載されており、主に地域や学校等の防災訓練で使用するほか、災害時の物資の運搬など、非常時においても使用を想定しています。さて、けすゾウくんの初めて



けすゾウくん



学校防災訓練での様子

われら若手消防団員

〈3〉

「地域から信頼される消防団」

加古川市消防団
加古川分団
田中 博志

加古川市消防団加古川分団は、加古川市の中心部を管轄しており、市街地や林野さらには河川においての火災や災害を想定し、



日々訓練を重ねています。
私は、平成十四年四月の入団以来、総合訓練、定例訓練、地域の防災訓練や防災設備・器具の点検等、日々尽力しています。
入団のきっかけは、当時の分団長から「一緒に消防団で頑張っていけないか。」と強く勧められたことです。それまでは全く興味がありませんでしたが、初めて訓練に参加したとき、「家族は固より、地域や市民の生命、財産を守り続けていこう！」と強く決意しました。先輩方も親切で、時には厳しく指導してくださるお陰で今では、一通りの事を任せてもらえるようになり

ました。これまでに、火災出動が何回もありましたが、夜中でもサイレンと警鐘の音が聞こえてくると、「パッ」と目が覚め、現場確認をしましう程です。
今後は、緊急出動や日々の訓練は基より、懸念されている東海地震、東南海・南海地震に備え、生命、財産の大切さを地域や市民に解ってもらえるよう努めるとともに、地域の方々と一緒に、防災活動に励んでいきたいと思っています。

須磨浦の急げ消ちん PART 39



地 区 通 信

「北播消防ソフトボール大会を開催」

北播磨支部

西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可郡のある北播磨地区は、兵庫県のほぼ中心部に位置して、中央部を中国自動車道、南部を山陽自動車道がそれぞれ東西に貫通して交通の要衝となっています。また、県下最大の河川加古川とその支流が流れ、流域には播磨平野が広がる豊かな自然と歴史文化に恵まれた地域です。

この大会は、火災や災害活動に携わる消防団員の平素の体力や気力、連帯感を養い、また、北播磨地区消防団員相互の親睦を深めることを目的として、隔年に実施しています。

当日は、梅雨時期には珍しく好天に恵まれ、北播磨地区の各消防団から選ばれた六チームと北播消防協議会チームの計七チームによりトーナメント方式で行われました。

北播消防協議会は、昭和三〇年に北播磨地区の各市、郡の消防団で発足してから、今年で五十二年を迎えました。今年度、北播消防協議会事業として、平成十九年七月八日(日)に、第十四回北播消防ソフトボール大会を加東市の加東市第三グラウンド・サッカー場で開催しました。

開会式は、団員による一糸乱れぬ入場行進に始まり、吉田大会会長のあいさつ、来賓の方々を代表して、加東市消防団の藤原輝彦団員が力強い選手宣誓を行いました。

このあと、二つのグラウンドに別れて、来賓の藤本県議会議員と山本加東市長による始球式でプレイボールとなりました。試合は、炎天下のグラウンドを、ところせましと白球を追いかける選手や、フェンス越えを披露して拍手で迎えられる選手、中には見事に空をきるスイングでチームを盛り上げる選手達により熱戦が繰り広げられ、また、グラウンド上での選手の活躍に応援団も一丸となって熱い声援を送っていました。



試合風景

各支部代表チームに混じって北播磨地区の消防団幹部で結成した北播消防協議会チームの成績は、試合の緒戦は優位に進めたものの、後半、連打を浴びて逆転、初戦で敗退しました。試合結果は、次のとおりです。

北播消防協議会では、これからも、今回のような行事を通して、北播磨地区消防団員相互の親睦を図り、体力・気力を高め、また、消防の使命である、住民の生命身体を守り、信頼される消防団を目指したいと思っております。

編集後記

朝晩の冷え込みが、日ごとにかきびくなくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今月号では「ひょうご消防のつどい二〇〇七」「第十八回全国女性消防操法大会」「第二六回全国消防殉職者慰霊祭」の記事を掲載しております。

また、今回の消防団今昔には養父市消防団長片岡稔さん、宝塚市消防団長古東宏之さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

これからますます寒さが増し暖房など火の気を多く使う季節となりますが、取り扱いには十分注意したいものです。



入場行進



優勝 小野支部

第二六回全国消防殉職者慰霊祭

第二六回全国消防殉職者慰霊祭が日本消防協会・全国消防殉職者遺族会の主催により、九月十三日(木)午前一〇時より東京・虎ノ門の日本消防会館ニッショーホールにて、厳かに執り行われました。

本慰霊祭において合祀されている御霊は、生前に旺盛な郷土愛護と崇高な消防精神に燃え、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、身を挺し消防活動を行い、また、身の危険をも顧みることなく懸命な水防活動を行い、尊くもその職に殉じられた全国の消防団員、消防職員、消防協力者の方々です。

式典には、兵庫県から、関山市長、遺族代表者八名が参列しました。

当日は、全国から多数の遺族の方々が今は亡き肉親の魂との再会を待つ中、日本消防協会旗の入場に始まり、御霊の奉納、黙祷、片山日本消防協会長の式辞の後、内閣総理大臣(代理)、荒木消防庁長官、小林全国消防長会長からそれぞれ追悼の言葉が贈られ、その後参列者が故人の冥福を祈り献花しました。

続いて、江戸消防記念会から鎮魂の歌(木遣



り)が披露されると、遺族代表よりお礼のことが述べられ、厳粛のうちに終わりました。

美と力を備えた新しいテクノロジーが社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学するモリタです。

株式会社モリタ

本社 〒544-0003大阪市生野区小路東5丁目5番20号 TEL06(6756)0119 FAX06(6754)3473 東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山



「こんにちは！兵庫の消防団です」



http://www.hyogoshoubou.jp/